

ピアノのソロは「夜のガスパール」から「スカルボ」のみ。チョコマカチョコマカとした軽快なフットワークを誇る動きを感じない。千変万化の変身の素早さを競うこともない。シャープでスムーズな動きの切れもない。軽量級というより重量級、グロテスク、考えてそんな性格付け。緩やかな動き、重厚で不恰好。その一つ一つの動きをユッタリと追いかける。ストップモーション、警戒心か注意深く。動作の凝視、クローズアップ、ズームアップにつながる。スローモーだが存在感ある黒光り、無理なカラフルさは持ち合わせていない演奏家、自分だけのものを追い求めて敢えて難しい道を。特徴づけて発揮、少し変わったもの、聴き慣れない部分、新鮮な音の組み合わせを聴いて、ピアニストの意図を少し理解できたようで嬉しく思う。踏み外す足取り、空足は残念。6月にピアニストのソロ・リサイタルがあるとのこと。考えや思いをジックリ聴けるのを楽しみに待つ。

メインのバイオリン。聴き続けると急に失速、航路を外され削がれるキモチ、ウーン。

(2003.2.21)

---

ラヴェル：「夜のガスパール」から「スカルボ」

ラヴェル：ツィガーヌ

ブラームス：ハンガリー舞曲6番

ブラームス：ヴァイオリンソナタ3番ニ短調 Op.108

(アンコール)

マスネ：タイスの瞑想曲

ショパン：練習曲 ハ短調「革命」Op.10-12

---